

Campus Magazine



オープンキャンパス 令和元年8月9日(金)

10:00~15:00(受付開始9:30)

※予約制ではありません。
多くの方のご来場をお待ちしております。

プログラム (予定)

- 学科紹介 ●模擬講義
- 展示コーナー ●実習体験・実験コーナー
- サークル紹介
- 在校生による個別相談コーナー

看護学科



理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科



大学祭 令和元年10月12日(土)・13日(日)

※どなたでもお気軽にお越しください!



保護者等(後援会)懇談会

令和元年10月12日(土)

平成30年度卒業証書・学位記授与式

平成31年3月7日(木)



平成31年3月7日(木)、本学講堂において、学部卒業生229名、博士前期課程修了生15名、博士後期課程修了生6名に、卒業証書・学位記が授与されました。

式では、上泉学長から、各学科(課程)の卒業生(修了生)代表者に卒業証書・学位記が授与されました。人生初の学位授与に臨んだ学部卒業生らは、学術的な慣例に従いアカデミックキャップ(帽子)のタッチセル(房)の位置を右から左に替え、学位を授与された証を示しました。

学長は式辞の中で、「本学の校歌である“新たな未来へ”は、「さあ、今始まる 終わらない旅路 「希望」へ

と向かう心は 新しい日を創る」という歌詞から始まります。未来へむけて旅立つために、「希望」という心があれば新しい日を創っていくことができると詩っています。そして最後は、「どんな時もずっと 忘れない 出逢えた奇跡を」と結んでいます。いまここにあることを大切に、みなさんが今この時をひとと共により、希望とときめきをもって未来に進んでいくことを、こころから応援しています。」との激励の言葉を卒業生(修了生)に贈りました。

ここに謹んで、卒業生(修了生)の皆様の卒業(修了)を祝すとともに、本学で学んだことを糧に、それぞれのフィールドでご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



平成31年度 入学式

平成31年4月2日(火)



青森県立保健大学講堂において、平成31年度入学式が行われ、健康科学部・健康科学研究科あわせて246名の新たな仲間を迎えることとなりました。

これからの大学生活に期待を膨らませる新入生と、それを見守る保護者や来賓の方々、本学の教職員が待ち受ける中、ステージの幕が上がり、開式の辞が述べられました。

新入生の名前が一人ひとり読み上げられ、緊張と期待に満ちた声で返事をする新入生の姿が印象的でした。全員の入学が許可された後、上泉和子学長から、「学ぶことができるこのチャンスを大切に、高い志をもって、あなた自身の将来の夢をかなえてください。そしてあなた方

を必要としている人々に、どうぞ力をかしてください。私たちはあなた方を応援しています。」との激励の言葉が述べられました。入学生代表宣誓では、伊藤慧さん(栄養学科1年生)が新入生を代表して、「ヒューマンケア」の精神を基盤とした多くの知識や技術を学び、少しの努力も怠らずに、日々に励んでいくことを誓いました。

新しい仲間を迎えての新たな1年が今年も始まりませ。本学で積んだ経験の一つひとつが、数年後の彼らの大きな成長と夢の実現へと繋がっていく、その一歩を踏み出した記念日であることを感じさせてくれる入学式でした。



新入生宿泊研修

平成31年4月8日(月)～9日(火)



学生自治会長
毘野 太雅さん

学内及び青森県平川市の南田温泉ホテルアップランドにおいて、一泊二日の新入生研修を行いました。この研修は、新入生が同級生だけでなく、上級生、教職員と交流することで、友好関係や信頼関係を築くこと、また、新生活での不安の解消を目的としています。

今回の研修には、学生自治会の9名と、各学科の上級生23名の、合わせて32名が研修サポーターとして参加しました。初日は、学生自治会によるアルコールハラスメント防止の講演と、栄養学科の上級生による健康的な食生活をテーマにした講演が行われました。学生が主となって企画し、資料を作成し、講演を行いました。学生目線の内容に、新入生をはじめ、上級生や教職員も興味深そうに聞いてくれ、充実した講演となりました。初日の夜は、学科別自由討論が行われました。これは上級生が中心となり、新入生の生活上の不安や疑問を話し合いながら、アドバイスをするというものです。学生生活についてたくさん話し、和やかな雰囲気

で行われました。新入生と上級生は、この場でお互いの距離を縮め、信頼関係を築いていました。二日目の自治会企画のレクリエーションでは、学科混合の班で、ゲームやクイズで獲得したポイントを競います。学科を超えた交流をしながら協力していくことで、新しい友達と出会っていました。

学生自治会や上級生サポーターが力を発揮してくれたので、講演などの真剣な内容のときには伝えたいことを伝えることができたと思います。また、自由討論やレクリエーションのときには場を盛り上げてくれ、新入生が楽しそうにしてくれていたのが良かったです。新入生がこの研修を機に、充実した大学生活をおくれることを願っています。(学生自治会長 毘野太雅)



アルコールパッチテストの様子

平成31年度 学生寮

レジデントアシスタント一同



こんにちは! 保健大学学生寮「あずまし寮」で寮長を務めております。大島美紅と申します。

今年度も新たな寮生を83名迎え、自炊に勉強にと多忙な日々ですが、2年生のレジデントアシスタントのサポートもあり、寮生同士助け合って生活しています。また、方言の話や高校の時の話などで盛り上がり、2年生のレジデントアシスタントを含む89名で笑いの絶えない楽しい寮生活を送っております。

私自身、1年間の寮生活を経験し、寮だからこその学びや楽しいこと、大変なことが多くありました。初めは慣れないことの連続でとても大変でした。また、

集団生活を通して、思いやりの心や他学科や違う出身地の人と話すことでコミュニケーション能力も向上、成長できたと実感しております。1年間という短い寮生活でしたが、私にとってかけがえのない時間でした。今でも、同じ部屋だった友達に会うと「なんだか安心するね」と笑いながら話をします。そんな素敵な友達ができただけで寮にいられてよかったと思えたことの1つです。

今年度は、さらにレジデントアシスタント6名で協力して1年生のサポートをしっかりと、寮生全員が寮で過ごせてよかったと思えるようなより良い寮を作るため、尽力していきたいです。(レジデントアシスタント兼寮長 大島美紅)



平成31年度レジデントアシスタント委嘱式にて

- 寮長 大島 美紅(前列 一番目)
- 副寮長 高橋 明日香(前列 右から3番目)
- 会計 佐野 春奈(後列 一番目)
- 会計 對馬 なな子(後列 右から2番目)
- 2階レジデントアシスタント 大須賀 みもり(後列 右から3番目)
- 2階レジデントアシスタント 三本松 玲央(後列 右から4番目)



新入生の近況報告



看護学科



境 梨々唯 さん

青森県立保健大学に入学してから1カ月が経とうとしています。少しずつですが、新天地での生活にも慣れてきました。

授業の仕方や学ぶ内容もガラリと変わり不安もありますが、それ以上に新しい挑戦への期待が募っています。初めて親元を離れて一人暮らしをしています。改めて今までの恵まれた環境に感謝しています。

勉強と同時にサークルやアルバイトなどを通じて、新しい人間関係を築いていきたいと思っています。

大学生活は始まったばかりです。4年間のうちの1カ月しか経っていません。大学での目標は「新しい挑戦」なので、多くの経験をしながら自分を成長させていきたいです。

理学療法学科



竹内 桃子 さん

入学して約2週間が経ち、大学生活にも徐々に慣れてきました。私は東京から来たので、慣れない土地での生活に不安を感じていましたが、寮に入っていることもあり、学科問わず友達ができました。また、新入生宿泊研修やサークルを通して先輩方とも仲良くなれました。大学の理念である「ヒューマンケア」を実践できる理学療法士となるために、先輩、先生方にご指導いただきながら、友人たちと切磋琢磨し、努力していきます。

社会福祉学科



沼畑 民生 さん

雪降る入学式から一か月が経りました。初めこそ新しいことだらけの日々に不安を募らせていましたが、ラーニングスキルや研修等々を通しておおまかな不安は解消され、ここでの新しい生活を楽しんでいます。

この一か月で強く印象づけられたのは、やはり4学科合同の授業です。異なる学科の人たちと共にグループワークをするのは確かに苦勞する一面もあるかもしれないですが、多角的な視野をもって物事を見るいい機会になりますし、自分の学科で学んだことを活用する場でもあるので、一番いい刺激を受けた時間だと思います。

大学は「自由」の範囲が広がり、時間の余裕を得ることも十分可能になりました。しかしそれは同時に自分の行動に、より責任を負うことにもなります。自分にとって何が必要で、これからどうしていけばいいのかを考え、将来を見据えた行動をしていけるように、この大学でしっかりと学んでいきたいです。

栄養学科



赤石 萌華 さん

入学から約1カ月、青森東高校に通っていた時から二駅前の東青森駅で降りることにまだ慣れません。入学直後は、履修登録、施設利用の方法などわからないことだらけでしたが、ガイダンスや友達との情報交換でなんとか乗り越えて来られました。

勉強内容は高校よりも遥かに難しいですが、自分で興味のある専門分野についての勉強なので苦ではありません。寧ろこれから新しい知識を身につけていくことが楽しみでしょうがありません。空きコマなどを有効に活用して、メリハリのある学習をしたいです。

この先の大学生活で待ち受ける様々な経験やサークル活動、アルバイトなどから知識だけではなく、人との関わり方や助け合うこと、協力することなどを学んでいきたいと思っています。また、今まで自分になかった視点や、新しい考え方なども身につけ、将来の目標であるあらゆる人に食の大切さを伝えられる管理栄養士になる為のコミュニケーションスキルを身に付けたいです。

学生生活サポート



学生部長
鳴井 ひろみ

学生を支援する体制について

大学では、自立した社会人として活躍する人材を育成することを考え、自立した大学生活へのサポートを行っています。1年次には生活支援プログラムとして、社会人としてのルールや自己管理能力を身につけることや、1年間の寮生活では、生活力や協調性、コミュニケーション能力の向上につながるよう支援しています。

大学生の年代は、生徒から学生・大人への移行の時期

であり、不安定な時期でもあります。そのため、悩みや迷いを抱きやすい時期です。そのような発達課題を持っていることを学生自らが認識し、自身の健康に関心を持って、心身および生活の管理を主体的に実践できるよう、保健室やカウンセリング室、また、各学科にチューター制や担任制において、学生がその状況に応じて、選択し、相談できる体制を整えています。



保健嘱託員
齋藤 真紀子

学生の心とからだを支えています

- 体のこと** 頭痛が続く。体がだるい。咳が止まらない。朝なかなか起きられない。過呼吸ぎみになる。など
- 心のこと** やる気が起こらない。気持ちが折れる。イライラする。だまっても涙があふれ出る。自分の性格に悩む。孤独感。いじめにあっている。など
- 対人関係** 友だちとうまくいかない。集団の中に入ると疲れる。人の目が気になる。人前だと緊張してしまう。相手の言いたいことがわからない。恋愛問題。など
- 学業一般** 勉強の仕方がわからない。集中が続かず課題がこなせない。単位や履修のこと。課題が多くて優先順序がつけられない。時間内にノートがとれない。進路に関すること。など
- 生活全般** 学習障がい、発達障がいなど、生活上の困りごと。家庭・経済上の問題。下宿・アパートの問題。サークルやアルバイトの問題。LGBTIに関すること。など

困ったときは
とりあえず
保健室へ！



心と体は一体です。心配ごとがあると、体も不調になることがあります。上記のような困りごと、がまんしていることを、どこに相談したらよいかかわからず、悩んでいることはありませんか？保健室は、あなたに寄り添い、そして一緒に考えていきます。

保健室が窓口となり、カウンセラー（臨床心理士）や学科の教員、場合によっては教務学生課とも連携し、個人情報に配慮しつつ、状況の改善に努めます。

一人で悩まず、周囲のサポートを受けながら、実りある大学生活にしていきましょう。

*カウンセラーによる学生相談は、週1回、11時から15時の間です。期日は、管理・図書館棟掲示板「保健室からのお知らせ」に掲示しますので確認してください。臨床心理士の岩田彩子さんが、C棟1階のカウンセリング室に待機しています。相談希望者は、保健室に直接来室するか、メール、電話等で連絡をしてください。



看護学科



助産診断技術学演習 (助産コース)

健康教育の一つ、沐浴指導のシミュレーション。助産師・妊婦役になり、モデル人形を用いて沐浴演習をしています。未来の助産師を目指して前進中です。



老年看護学概論

高齢者の暮らしやすい生活環境や援助のあり方を考えるきっかけとして、高齢者疑似体験セットをつけて日常生活を再現した演習をしています。



看護学科長
木村 恵美子

キャリアを見据えて

看護学科は看護の専門職である、看護師・保健師・助産師を養成しています。ここでの学びは、専門的知識・技術を修得し国家試験を受けて免許を得ることだけではありません。対象となる人間の特性を知り、ニーズを適切に把握した上で、他職種と連携して、看護を実践し、より良く！に向かって目指していくという総合的な力を身につけることも含まれます。看護学科では、実践に近い多様な教授法を用いて学生がイメージしやすいよう工夫し、各施設の実習指導者とも連携し、学生が主体的に考え、実践できる実習環境となるよう整えています。4学年で約450人の学生達を見守る体制は、チューター制による学生支援・国家試験対策・就職対策・シミュレーション教育推進委員会等、教員43名で丁寧に対応しています。保護者、地域ならびに同窓生の皆様と共に未来の看護専門職者を育成してまいりますので、ご支援お願い申し上げます。

平成30年度卒業生 近況報告



独立行政法人国立病院機構
八戸病院
看護師
石田 海徒さん

私が就職した国立病院機構八戸病院には重度心身障がい児(者)病棟と主に神経内科の疾患を扱う病棟があります。私は神経難病や人工呼吸器を装着した患者の看護に携わりたくこの病院を選びました。神経難病看護は様々なスキルが必要とされ、日々多くのことを学ばなければいけません。その中で私は在学中に学んだ「根拠に基づいた看護」を提供することを大事にして、常に行ったケアの根拠を考えながら実践しています。先輩方に支えられて充実した毎日を過ごしています。

理学療法学科



神経障害理学療法学

授業では中枢神経疾患の病態を理解し、理学療法検査及び治療方法について学びます。写真では脳血管障害後の片麻痺者が使用するプラスチック装具を用いた移乗動作を説明しています。



運動器障害理学療法学実習

授業では骨、関節、筋の運動器の疾患の病態を理解し、理学療法検査及び治療方法について学びます。写真では整形外科徒手検査の実際を説明しています。



理学療法学科長
神成 一哉

理学療法学科では専門的知識・技術と豊かな人間性をもった理学療法士の育成をめざしています

本学科では、理学療法士として社会で活躍したいという学生の皆さんの夢を実現すべく、1学年30名の少人数定員に対し17名の専任教員という充実した体制で、最新で高度な理学療法の知識と技術を身につけられるよう丁寧に指導しています。また理学療法についての臨床能力を高めるために、演習形式の授業の展開や学外実習施設と連携した臨床実習を充実させています。一方、本学での学生生活の間に、専門領域の勉強だけでなく、何にでも興味を持って積極的に色々なことを吸収して、幅広い教養と豊かな人間性を育み、周囲から信頼されるヒューマンケアに根ざした理学療法士となってもらいたいと思っています。本学科では、学生の様々な相談に親身に応じるために各学年2名の教員による担任制をとって、学生生活支援にも力を入れています。

平成30年度卒業生 近況報告



一般財団法人双仁会
青森厚生病院
理学療法士
佐藤 斐菜さん

17期生の佐藤斐菜です。私は自分の怪我をきっかけに理学療法士を目指し、手術・リハビリをしていただいた青森厚生病院での就職を決めました。現在は先輩の指導の下、業務の流れを教わり、また、評価や治療、介助を行っています。そこで、実習の経験が大事だと感じました。学生のうちに患者様との接し方や臨床の雰囲気を感じることができるとは貴重だと思います。学生のうちに実習で学べることを学んで頑張ってください。

社会福祉学科



社会福祉学概論Ⅰ

1年生前期に配置されている授業で、社会福祉の基本的な考え方や歴史を学びます。社会の様々な事柄を捉える多様な視点を学ぶことで、社会福祉学の研究につなげていく導入的な講義です。



精神保健福祉援助演習Ⅱ

4年生で精神保健福祉士としての専門的な実践について体験的に学ぶ授業です。演習形式は、学生と教員とがコミュニケーションを取りやすく、実践を想定したトレーニングによって、専門的な実践技術の修得を目指します。



社会福祉学科長
大山 博史

社会福祉学科における学び

社会福祉学科では、社会福祉の専門職に必要な知識や考え方を学ぶことができます。また、演習・実習をとおして、専門的な援助の技法を学ぶことができます。少数制の特徴を生かして、授業は段階的に無理なく進められておりますので、積極的に参加することにより、確実に学びを深めることができます。

本学科では、教員が専門分野を生かし、地域に貢献していることも特徴です。これらの教員の指導の下、学生自身が3年生から卒業研究に着手します。社会福祉の理論や歴史的側面、支援に関する実証研究などに触れ、社会福祉のグローバルな知見と実践の統合を図ることができます。また、国家資格である「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の養成を担っており、国家試験合格率は全国でトップクラスを維持しています。就職率も非常に高い水準にあり、卒業生は福祉、医療、行政等の現場で活躍しています。本学では、卒業後に専門性を高め、研究を深める大学院も設置しています。

保護者や同窓生の皆様、地域の方々には、今後も社会福祉学科へのご支援をお願い申し上げます。

平成30年度卒業生 近況報告



青森県庁 上北地域県民局
地域健康福祉部

蝦名 克哉さん

4月から青森県庁に入庁し、福祉事務所生活保護ケースワーカーとして働いています。主な業務は生活保護費の計算や訪問活動、連絡調整であり、これらの業務を通して生活保護受給者の生活を支えるお手伝いをしています。新しい環境に身を置き、不慣れなことばかりで大変ですが、大学での授業や実習で学んだことを活かし、職場の先輩方に指導していただきながら、一杯業務に取り組んでいます。

あなたも青森県民のために働いてみませんか？

栄養学科



基礎栄養学実験

ヒトを対象とした実験で、基本的な栄養素の消化、吸収、代謝、排泄やエネルギー消費、代謝に変化を及ぼす遺伝子多型についての理解を深めます。写真は、呼気ガス分析で身体活動の消費エネルギー量の測定を行っている様子です。



臨床栄養学実習Ⅰ

特に医療施設における各疾患に適した治療食の献立展開と、その調理を実践します。調理した食事や特殊調整食品を試食することで、食べる側（対象者）を体験し、その経験を次の献立作成や食品選択に活かすことができます。



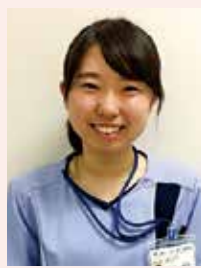
栄養学科長
今 淳

管理栄養士は天職です

適切な量と質の食物を口から正しく摂取し、消化・吸収・代謝が正常に行われる場合に、私達は健康を維持できます。しかし、このプロセスに異常を来すと、病気に陥り死に至ります。このような状況では、医師からの医療を受けても、完治は望めません。この問題を解決するのが管理栄養士です。管理栄養士は、一人一人の食のプロセスを完璧に是正し、疾病の治療と予防を行う唯一のプロです。命の源を握っており、正に

天職です。学生諸君には、管理栄養士の責務の重要性を決して忘れず、誇りと気概をもって頑張ってもらいたいと思っています。そのために我々教員は、最高レベルの医療を提供できる管理栄養士になるよう、厳しく鍛えています。挫けそうになる者もいるかも知れませんが、大きな志を持って入学してきた学生諸君の全員が挫けずに精進し、青森県のみならず、日本、そして世界へと飛躍することに期待し、厳しく且つ愛情を持って指導しています。

平成30年度卒業生 近況報告



医療法人芙蓉会村上病院
管理栄養士

松本 春菜さん

私は、管理栄養士として芙蓉会村上病院で働いています。主な仕事は献立作成や栄養アセスメント、栄養管理計画の作成などです。直営給食の病院であるため、管理栄養士も厨房に入り、給食業務に携わっています。給食業務も栄養管理業務もしっかり学び、管理栄養士として成長できるよう、日々励んでいます。

今後は、知識をもっと増やし、患者様と接する病棟訪問や栄養指導を実践していきたいです。そして、患者様や他職種の方々から信頼される管理栄養士になりたいです。



後援会会長
齋藤 勝博

後援会会長あいさつ

後援会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学は、建学の理念である「ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材の育成」のもと、実践的な社会人育成に向けた専門性の高い大学として着実にその存在感を高めてきております。

後援会では、新入生研修や学生の福利厚生、大学祭や

サークルなどの活動、卒業研究の助成等、学生が大学に入学してから卒業するまでのさまざまな場面で学生に対する支援を行っております。

後援会会員の皆様のご理解とご協力のもと、後援会では、これからも学生の成長を温かく見守っていきたくと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成31年度青森県立保健大学後援会役員名簿

会長	齋藤 勝博 (看護学科3年)	理事	館山 久子 (社会福祉学科2年) 嵯峨 真紀 (栄養学科2年)
副会長 (理事)	工藤 明子 (理学療法学科4年) 逢坂 愛子 (看護学科2年)	監事	中村 純子 (理学療法学科4年) 稲葉 愛 (社会福祉学科2年)
理事	伊藤 美香 (社会福祉学科4年) 中村 智子 (看護学科3年) 村上 玲奈 (理学療法学科3年)	顧問	鳴井 ひろみ (学生部長)

※()内は在学中の学生の学科及び学年です。

後援会 決算、予算

平成30年度 後援会決算書

(収入の部)		(単位:円)		
項目	予算額(A)	収入額(B)	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	12,102,500	12,057,500	△45,000	@50,000×229人(学部学生) @25,000× 4人(編入学生:看護) @37,500× 2人(編入学生:社福) @37,500× 3人(編入学生:栄養) @20,000× 16人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	23,587,182	23,587,182	0	
3 雑収入	196	20,168	19,972	預金利息等
合計	35,689,878	35,664,850	△25,028	

(支出の部)		(単位:円)		
項目	予算額(C)	支出額(D)	比較(D-C)	摘要
1 会議費	27,300	3,200	△24,100	後援会総会・理事会等出席に係る 役員の交通費
2 事務費	135,000	114,711	△20,289	保護者等懇談会の開催案内発送費、 各事業費振込手数料
3 事業費	11,179,000	11,012,721	△166,279	
(1)サークル活動助成費	1,375,000	1,202,257	△172,743	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	172,000	190,380	18,380	大学広報誌(年2回)後援会負担分
(4)学生福利厚生費	1,785,000	1,920,711	135,711	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用 不足分は他の事業費から捻出
(5)国際交流助成費	0	0	0	
(6)就職対策費	0	0	0	
(7)卒業関係・国家試験 対策関係助成費	3,771,000	3,678,223	△92,777	卒業関連事業助成、卒業研究助成、 特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,526,000	2,479,500	△46,500	新入生に対する学内研修及び 学科別交流に要する昼食代等
(9)アカデミックカウン タクリーニング	0	0	0	
(10)その他	50,000	41,650	△8,350	大学院新入生ウェルカムランcheonパーティー
4 予備費	52,000	0	△52,000	
小計	11,393,300	11,130,632	△262,668	
5 次年度以降事業費	24,296,578	24,534,218	237,640	
合計	35,689,878	35,664,850	△25,028	

※次年度への繰越金 24,534,218円(総収入 35,664,850円-総支出 11,130,632円)

平成31年度 後援会予算書

(収入の部)		(単位:円)		
項目	(A)30年度予算	(B)31年度予算	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	12,102,500	11,650,000	△452,500	@50,000×225人(学部学生)(大学予算案ベース) @25,000× 1人(編入学生:看護) @37,500× 2人(編入学生:栄養) @20,000× 15人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	23,587,182	24,534,218	947,036	
3 雑収入	196	168	△28	預金利息(前年度実績ベース)
合計	35,689,878	36,184,386	494,508	

(支出の部)		(単位:円)		
項目	(C)30年度予算	(D)31年度予算	比較(D-C)	摘要
1 会議費	27,300	27,300	0	後援会総会・理事会等出席に係る 役員の交通費
2 事務費	135,000	122,000	△13,000	保護者等懇談会開催案内等送料、 各種振込手数料
3 事業費	11,179,000	11,903,000	724,000	
(1)サークル活動助成費	1,375,000	1,732,000	357,000	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	172,000	191,000	19,000	「活彩!保健大学だより」作成・発送費の 後援会負担分
(4)学生福利厚生費	1,785,000	2,081,000	296,000	肝炎検査、貧血検査、実習に係る 諸検査費用
(5)卒業関係・国家試験 対策関係助成費	3,771,000	3,942,000	171,000	卒業関連事業助成、卒業研究・国家試験対策助成 修了関連事業助成、特別・課題研究助成
(6)新入生研修費	2,526,000	2,442,000	△84,000	新入生の学外での宿泊研修に係る 宿泊費等
(7)その他	50,000	15,000	△35,000	大学院新入生ウェルカムランcheonパーティー
4 予備費	52,000	52,000	0	慶弔費など
小計	11,393,300	12,104,300	711,000	
5 次年度以降事業費	24,296,578	24,080,086	△216,492	
合計	35,689,878	36,184,386	494,508	



退職

看護学科

●大関 信子

開学から20年間、学生さんと一緒に病む人の痛みを自分のものとし、暖かい手を差し伸べる術を学ぶことができたのは大きな喜びです。死ぬまで人々に奉仕できるよう、私もまた研究の道に進みます。全ての人に感謝しております。

●井澤 美樹子

「信じ合うことで人は成長する」を大切に、学生と真剣に向き合った20年間でした。一人ひとり可能性を持った学生たちとの出会いは私の宝です。ありがとうございました。

●松尾 泉

担当する在宅看護学の授業だけでなく、ボランティア活動を通じ、地域住民のヘルスリテラシー向上に関心と理解が深められたことは大切な思い出です。地域に強い保健大生がこれからますます育つように願っています。

●市川 美奈子

2007年の10月に着任して以来、たくさんの方と出会い、別れ、再会してきました。ここで得た縁は、大切にしていきたいと思っています。皆様のますますのご活躍を心よりお祈りいたします。

●外崎 裕梨

4年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。母校に戻ってこられたことを嬉しく思います。学生の皆さんからもたくさんのご意見をいただき感謝しています。ありがとうございました。

理学療法学科

●長門 五城

保健大には12年4ヶ月お世話になりました。青森での年月は今迄に会ったこともない方々との巡り合いをもたらし、大きな財産となりました。今後は新たな目標に向かって家族共々進む所存です。ありがとうございました。

社会福祉学科

●出雲 祐二

私はこの3月で定年退職を迎えました。考えてみると、人生とはその場を生き、その場を去ることに尽きるように思います。楽しませてもらった学生さんやお世話になった教職員の皆さまに感謝しつつ、私も新たな場に向かって出発です。

●西村 愛

冬の寒さは衝撃でしたが、あっという間の10年間でした。学生支援や委員会活動、顧問をしていたサークルの受賞など、貴重な経験と贅沢な日々でした。青森での経験を活かし頑張ります！本当にありがとうございました。

●山田 伸

保健大学の精神保健福祉士養成に携われたことに、心より感謝申し上げます。またみなさまとお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

栄養学科

●森山 磨理子

学部卒業からそのまま教員として働くことになり、戸惑うこともありましたが、学生、教職員の皆様の暖かい笑顔に励まされ、充実した日々を過ごす事が出来ました。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

●吉田 優弥

学生と共に学び、教職員の皆様に支えられながら、とても充実した2年間を過ごすことができました。青森での日々は、私の大きな財産です。心から感謝しております。皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

新任

看護学科

●大崎 瑞恵

成人看護学領域の講師として着任いたしました。病氣や障がいとともに生きる方々やそのご家族が、その人らしくあるための看護について、学生の皆さんと考えていきたいと思っています。よろしくお祈りいたします。

●稲野 邊 みゆき

看護学科、母性・助産学領域の助手として着任いたしました。助産師歴11年、自らの手で取り上げた児は1000例を超えます。この経験を活かし、命の尊さ、大切さ、そして素晴らしい学生に伝えていきたいと思っています。

●一戸 聖羅

私は本校を卒業後、県内で臨床経験を積み戻って参りました。学生の皆さんには、専門知識はもちろん、私自身がこれまで経験したことをお伝えし、将来活躍していくための、ほんの少しの糧になれたらと思っています。

●工藤 若子

はじめまして。成人看護学領域の工藤です。学生の皆さんとは、授業や実習を通して、患者さんとその家族にとって「より良い看護とは何か」を一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りいたします。

●丹野 真理子

看護についてさらに学びを深めたいと思い、この春から教員として着任いたしました。学生の皆さんと看護の力を探求し、共に成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りいたします。

栄養学科

●山岡 伸

4月から着任しました、山岡です。前職は兵庫県の女子大で助手をしておりました。管理栄養士として食事や栄養の面で健康や医療に貢献したいと思っています。宜しくお願いします。

ヘルスリテラシーコラム



ヘルスリテラシー推進特命部長
大西 基喜

本学では平成26年度、「ヘルスリテラシー推進」というテーマをいわば学是に掲げ、そのための5年間事業に取り組みました。いよいよ今年度はその最終年になります。

ヘルスリテラシーは、日本語では、「健康をつくる力」「健やか力」「健康教養」などさまざまに訳されていますが、要は自分の健康に関する情報を入手し、理解し、さらに吟味し、それを活用する能力を指します。この能力が健康の維持や病への対処、最終的には寿命にも影響することが次第に分かってきました。

本学の使命は、ヒューマンケアの人材育成にあり、それは究極的には、人々の健康を希求することにつながります。そして、健康におけるヘルスリテラシーの重要性を踏まえ、その推進を本学のテーマとすることは、教育上でも、また地域連携における実践上でも意義が高いものと考えます。

今年度も含め、5年間の事業を行ってまいりました。本年度はそれらを総括し、今後の展望を拓いていく年となります。ざっくりとこれまでの振り返りてみます：

- 1) まずもって、「健やか力向上サポート宣言」を行い、方針・方向を明確化しました。
- 2) ヘルスリテラシー向上に資する人材育成を目指し、カリキュラムにヘルス

リテラシー関連科目を充実させました。大学院では2017年度から、学部では2018年度から、新カリキュラムとなっています。

- 3) 学生や教職員による住民支援の事業を公募し、毎年数件、学生主体の事業活動を展開しています。
- 4) 学術的な面でも、ヘルスリテラシー関連研究を支援し、活性化をはかりました。さらに、大学主催の研究会や学会で積極的に取り上げてきました。
- 5) 昨年までの4年間、大学の公開講座のテーマで取り上げるようにしてきましたが、今年度はヘルスリテラシーを公開講座のメインテーマに据えています。
- 6) その他、「関連図書ブックフェアで紹介する」、「地域の関連活動を支援する」、「イベントや大学祭にもコーナーを設ける」など、多角的な事業を展開してきました。また、ホームページ：「マルホ健やかナビ」を開設し、これらの活動を紹介しています。

今年度はその最終年で、事業評価を行い、報告書を刊行する予定です。事業としては終了しますが、ヘルスリテラシー向上については、次年度以降も引き続き大学の大きなテーマとして、各学科、大学院、各センターで取り組んでいくこととなります。

平成31年度 年間スケジュール

4月	5月	8月	9月	10月	11月	1月	3月
 入学式(4/2)	公開講座 広報誌(春号)発行	 ケア付きねぶた	集中講義(8/29～9/4)		広報誌(秋号)発行	後期試験(1/27～31)	 卒業証書・学位記授与式(3/10)
 新生研修(4/6,7)	6月 7月 前期試験(7/26～8/1)	 オープンキャンパス(8/9)	後期授業開始(9/24)	 大学祭(10/12,13) 保護者等(後援会)懇談会(10/12)	12月	2月 集中講義(2/3～7)	

国家試験結果と卒業後の進路について



国家試験合格率

看護学科

看護師 100.0%
受験者 104名 合格者 104名

保健師 96.7%
受験者 30名 合格者 29名

助産師 100%
受験者 4名 合格者 4名

理学療法学科

理学療法士 96.4%
受験者 28名 合格者 27名

社会福祉学科

社会福祉士 82.4%
受験者 51名 合格者 42名

精神保健福祉士 100%
受験者 22名 合格者 22名

栄養学科

管理栄養士 97.1%
受験者 35名 合格者 34名

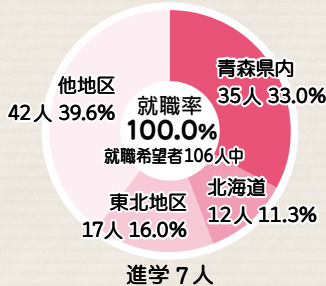
看護師の国家試験
合格率100%は
開学以来初
なんだって！



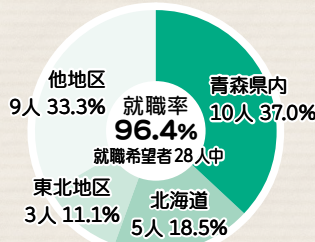
社会福祉士の合格率は
全国第2位
(受験者50名以上の学校59校中)
でした。

就職率 令和元年5月1日時点

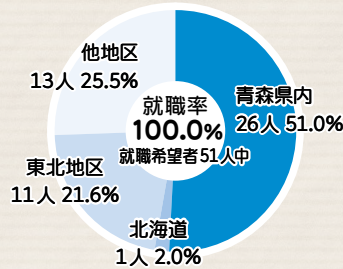
看護学科



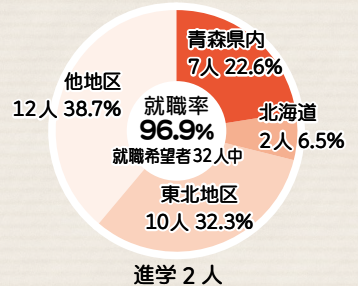
理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科



今年の就職合同説明会



- **春季就職合同説明会**
(看護・社会福祉・栄養学科対象)
4月13日(土)
青森産業会館
- **夏季就職合同説明会**
(理学療法学科対象)
7月20日(土)
本学交流センター
- **秋季就職合同説明会**
(社会福祉学科・栄養学科対象)
10月9日(水)
本学交流センター

COC+事業「女子学生のキャリア支援プログラム」の取組

平成27年から弘前大学が代表校で「オール青森で取り組む地方人財育成・定着事業」が展開されています。この事業には、県内の主な大学・県・市が参加しており、本学も協定を締結し、「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。本年の主な活動を述べます。

● H29に実施した「キャリア・生活指向と就業先選択に関する調査」を更に分析を重ね、学生のキャリア教育の副読本ともなり得る調査結果報告書を作成しました。

● 学生向けセミナーは、自分の年齢に近いゲストの働く経験を聞き、話し合いを通じて、自分のキャリアの方向性を探る「くらすはたらく」シリーズとして、6月28日(金)「session4～ライフワークライフワーク～」を「キャリアデザイン科目」にて実施する予定です。



「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」のチラシ



「キャリア・生活指向と就業先選択に関する調査」結果報告書



「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」の様子

● これまでに主に看護職や福祉施設向けに実施していた企業向けセミナーは、青森県委託事業として、一般企業向けに「多様性(ダイバーシティ)のある職場づくりのための実践セミナー」を11月27日(火)に開催しました。県内企業16社が参加し、満足度の高い評価をいただきました。

今後も意欲的に事業展開していきますので、ご注目いただけますと幸いです。

地域の「健康と福祉」の未来を担う研究者や高度専門職業人をめざして 本学大学院へのお誘い



大学院健康科学研究科長
佐藤 伸

本学大学院の特徴は大きく3つあります。第一に、他大学ではあまりみられない、多職種との連携や学際的研究の推進をめざした「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の研究領域を設けたことです。自分自身の研究テーマを持ちつつ、隣接する他の学問領域と連携して研究を進めることは「多職種との連携」につながります。第二に、県内で唯一のがん看護のスペシャリスト(がん看護専門看護師)の養成コースを開講しています。第三に、講義・演習科目については、自らの研究課題やキャリアパスに応じて柔軟に履修できるようにしています。さらに、社会人が働

きながら学べるように、土日や夜間の授業も開講しています。それゆえ、本学大学院は、学部を卒業してさらに研究を進めたい人、社会人として勤めつつも人々の健康やより良い生活を支えるための研究をしたいという熱意を持っている人にとっても、将来のキャリアアップに最適な学びの場を提供できると確信しています。本学の大学院で培った高度の専門知識と研究力は、研究者として、あるいは高度専門職業人として将来の目標を達成させるためにきっと役立つことと信じています。研究する楽しさや、わくわくする気持ちを共有できる皆さんをお待ちしています。

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.uhw.ac.jp/>